

## 予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：警察費 項：警察活動費 目：刑事警察費

### 事業名 ニセ電話詐欺防止対策・高齢者安全対策事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

警察本部 生活安全部 生活安全総務課 電話番号：058-271-2424(内 3011)

E-mail：[c18873@pref.gifu.lg.jp](mailto:c18873@pref.gifu.lg.jp)

1 事業費 3,705 千円 (前年度予算額：2,704 千円)

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,704	0	0	0	0	0	0	0	2,704
要求額	3,705	0	0	0	0	0	0	0	3,705
決定額	3,705	0	0	0	0	0	0	0	3,705

## 2 要求内容

### (1) 要求の趣旨(現状と課題)

県内のニセ電話詐欺発生状況(令和3年10月末現在)は、認知件数187件(前年同期比+61件)、被害額2億5,383万円(前年同期比+9,471万円)と被害額、認知件数ともに増加しており、その被害は深刻な状況にある。

このうち、高齢者の被害が多くを占めており、高齢者の被害防止対策が喫緊の課題となっている。

### (2) 事業内容

#### ○ニセ電話詐欺防止対策

##### ・被害防止ステッカーの配布

受け子に対する威嚇効果がある「ニセ電話詐欺防犯指導済」の注意喚起ステッカーを作成し、犯行グループのアジト等から押収した名簿登載者に郵送する。また、それ以外は巡回連絡など各種機会を通じ警察官が高齢者宅を訪問し、自宅のインターフォンや玄関口などに貼付してもらうことにより、凶悪事案へと発生しやすい自宅訪問型のニセ電話詐欺犯罪の被害防止を図る。

○高齢者安全対策事業

- ・高齢者安全対策指導班によるニセ電話詐欺被害防止指導の実施
- ・高齢者に分かりやすい広報啓発を推進するため、複雑化しているニセ電話詐欺の手口を市民劇団による寸劇で分かりやすく説明し啓発する。

(3) 県負担・補助率の考え方

県内の住民に対するニセ電話詐欺被害防止のための事業であることや、県内の高齢者に対する犯罪や事故防止活動であり、県負担は妥当である。

(4) 類似事業の有無

無し

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	200	市民劇団出演料
旅費	196	市民劇団依頼旅費
需用費	2,386	高齢者安全対策指導班用事務費、印刷製本費、ニセ電話詐欺被害防止小冊子・ステッカーの印刷製本費
委託料	886	☑ニセ電話詐欺被害防止ステッカー送付
その他	37	会場借上げ、制服クリーニング
合計	3,705	

**決定額の考え方**

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

Ⅱ-2-(2)-③ 犯罪・交通事故防止の推進

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/>	新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/>	継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか  
 犯罪や暴力、事故のない地域をつくる  
 地域防犯活動を強化する

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 ( )	R2 年度 実績	R3 年度 目標	R4 年度 目標	終期目標 (R5)	達成率
						%
ニセ電話詐欺認知状況		150 件				%
ニセ電話詐欺被害額の状況		2 億 7 千 万				%

○指標を設定することができない場合の理由

ニセ電話詐欺及び高齢者の犯罪や事故を根絶することを目標として各種広報啓発活動を行っており、浸透度合いを測ることは難しく、目標設定は困難である。

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	自動録音警告装置の貸出（1,175 台中 1,050 台）、高齢者安全指導班による防犯講話を実施し、ニセ電話詐欺被害の防止を図った。講話参加者からは詐欺の手口について理解できたなど好評であった。
令和3年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和4年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<p>・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	県内の高齢者の身体・財産の保護を目的に事業展開しており、高齢者がいきいき暮らす社会とするため、事業の必要性は高い。
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 2	ニセ電話詐欺による高齢者の被害は後を絶たず、高齢者に分かりやすい広報等は好評であり、今後の被害抑止につながると期待している。
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 1	ニセ電話詐欺による高齢者の被害防止のため、限られた予算を効果的かつ効率的に活用するよう努めている。

### (今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <p>高齢者をターゲットとする犯罪及び高齢者を狙う犯罪グループは数多くあり、警察がこれまで展開している防犯対策や検挙対策では追いつかない状況にあるため、高齢者自身の犯罪に対する抵抗力を高める必要がある。</p>
--

### (次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <p>今後、高齢化社会が一層進展していくことは間違いなく、犯罪のターゲットになりやすい高齢者を保護するためにも継続した対策を展開する必要がある。また、関係機関との連携も強化して進めていきたい。</p>
--

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	<p>【〇〇課】</p>
<p>組み合わせて実施する理由や期待する効果 など</p>	